11月の園だより

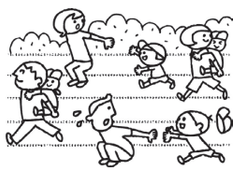
太陽の子保育園　2023年11月

朝夕めっきり肌寒く感じられるようになり、遠足先の公園では木々が秋色にすっかり染まっていました。遠足ではかなりの距離を歩いていたのですが、目的地の公園に着くと、走ったり・飛んだりと、友達と仲良く遊んでいました。子どもは本当に元気ですね。

これから実施する個別面談（らいおん組のみ８月より実施）では、４月当初から約半年間のお子様の園での様子や活動を、限られた時間ではありますがお話しをさせていただいています。面談を通じて、成長をより一層感じていただければと思っています。すでに面談を終えた保護者の皆様につきましては、お忙しい中お越しいただきありがとうございました。

これからもたくさんの楽しい行事を控えています。気候の変化で体調を崩しやすくなってきますが、早寝・早起きなど生活リズムを整え、元気に登園していただければと思います。

運動会へのご参加ありがとうございました



運動会ではたくさんの方にご参加をいただき、ありがとうございました。4月から半年間で、心身ともに成長したお子様の姿に感慨もひとしおだったのでは…そんな子どもたちも1月の SUN 太お楽しみ会に向けて頑張っています。さらに成長した子どもたちの姿を楽しみにしていてください。また、アンケートにもご協力をいただきありがとうございました。皆さまからいただいた貴重なご意見は、来年度の運動会の参考にさせていただきます。

もちつき大会(12/8) つき手を大募集 !!

12月8日（金）に実施する「もちつき大会」で**つき手**としてご協力いただける**幼児クラス**の保護者の方を募集しています。詳細は後日配布するお便りをご覧ください。

11月の予定

1（水）	懇談会（ひよこ）
2（木）	懇談会（ぺんぎん）
7（火）	保育参加・懇談会（うさぎ）
8（水）	音楽指導（幼児）
9（木）	調理保育（くま）
13（月）	職員園内研修
13～17	身体測定
14（火）	体育指導（幼児）
16（木）	保育参加・懇談会（らいおん）
17（金）	お誕生日会
20（月）	保育参加・懇談会（ぱんだ）
21（火）	保育参加・懇談会（くま）
22（水）	避難訓練
25（土）	はむら保育展
27（月）	職員園内研修

12月の予定

4～8	身体測定
5（火）	体育指導（幼児）
8（金）	もちつき
13（水）	避難訓練
14（木）	音楽指導（幼児）
16（土）	大掃除
20（水）	調理保育（らいおん）
22（金）	職員会議
22（金）	お誕生日会

はむら保育展

11/25（土）10:00～16:00
会場：ゆとろぎ

年齢別の部屋とあそびの部屋、保健の部屋・栄養士会コーナーと 6 つの部屋を設置します !! どの部屋も楽しくあそびながら子育てに役立つ情報が得られるようになっています !! また 13:30 より大ホールにて「わくわく親子コンサート」として、ホップの会（男性保育士の会 ）による劇やコンサートも行います。
今年度の保育展は、ぺんぎん組の長崎まりなが担当となります。

「反抗」について

「0～3歳 能力を育てる
好奇心を引き出す」
汐見稔幸著（主婦の友社）より抜粋

毎日、毎日、「イヤ！」「イヤ！」

２歳前後になると、いったんつむじを曲げると何を言っても「イヤ」、「イヤ」の連発が始まります。

「パジャマに着かえようね」「イヤ」、「じゃあ、そのまま寝るの？」「イヤッ」、「どうするのよ、いったい！」「イヤーッ」というぐあいです。英語ではそのため、２歳児をテリブルトゥー（terrible two）、恐るべき２歳児というくらいです。

反抗には個人差があり、盛んに反抗するのは、いわゆるマイペース型の子です。人とかかわるより、自分で何かしたいという気持ちが強く、好ききらいがはっきりしているのが特徴ですから、頭の中にお母さんと同じ生活の時計があるわけではないことを、なにかにつけて強く主張します。これが反抗となってあらわれるのです。

なぜ反抗が起こるのだろう

反抗はいろいろな要素がからみ合って起こりますが、大別すると４つのタイプが考えられます。

その１つは、子どもに予測する力がついてきたことと関係があります。自分の気に入ったことをしていたいので、お母さんが「さあ、ごはんだからおうちに帰ろうね」と言っても、「こんなに楽しんで遊んでいるのに。もっと遊んでいたい。おうちに帰りたくない」という気持ちになるのです。

２つ目はちょうど自我が急成長するころなので、自己主張の最盛期になること。手先も多少器用になって、靴をはくとか、はさみで切るとか、いろいろなことができるようになりますから、自分の能力を使ってみたくてしかたがないのです。でも、まだへたなのでなかなかうまくいかず、イライラしているのに、お母さんが気づかず、いままでと同じように赤ちゃん扱いをしていると、子どもはプライドを傷つけられて反抗的になります。

３つ目は心の基地ができていない子の反抗です。親子の間に基本的信頼感がしっかり形成されていないため、対人関係に不安があって、自分にやさしくしてくれる人には極度に甘えますが、敵対関係にあると思った人には反抗的な態度をとります。

４つ目はそんなにはっきりとは説明のつかない反抗の場合です。早くおしゃべりができるようになって「よい子」にさせられてきた子が、２歳半を過ぎたころから急に反抗的な態度をとるようになった場合、「もう親の言いなりにはならないぞ、自分がやりたいことをやるんだから」という宣言を、幼い方法で表現することもあります。

反抗にはどう対応したらいい？

子どもが反抗的になっているときに、それを無視して親の言うことを聞かせようとするのは、最もまずい対応です。子どもはますます反抗的になって、それこそ収拾がつかなくなります。

反抗は子どもの心が成長したしるしと、おおらかに受けとってやるのがいちばんいいのですが、いつも時間に追われている親としては、そうそう子どもの要求を認めてばかりはいられませんね。

２歳児を扱い慣れた保育園の保育士さんは、散歩に行くとき、「お散歩に行くから、おしっこに行ってらっしゃい」とは言いません。反抗期を迎えた子どもたちから「おしっこなんて出ないもん」「おしっこ行かなきゃいけないんなら、お散歩行かない」と言われるに決まっているからです。そこで、

「あの公園にね、ヤギさんがいたんだよ。見たいねえ。みんなどうかなあ」

「えっ、行きたい」「ヤギさん、見たーい」「あっ、おしつこ行ったかな」

「まだ」「先生、待ってて」「行ってくる」

というように対応するそうです。うまくノセるといったらいいでしょうか。

子どもは楽しみが待っていると、その前の障害を乗り越えることができます。何かさせようとしたら、子どもに期待を持たせてやることが必要です。

反抗の目立たない子は？

反抗が目立たない子には二とおりあります。一つは親がじようずに対応していて、反抗がほとんど目立たない場合。全く問題ありません。

しかしもう一つのケースは問題です。お母さんの期待に添った行動をするいわゆる「いい子」は、小さいうちは確かに育てやすいでしょうが、しだいに「自分という自我」と「周囲の期待に添わなくてはならない自我」の葛藤に悩むようになります。よく「小さいころはいい子だったのに……」という相談がありますが、こういう子は思春期になってから問題行動が目立つようになります。

もし自我の形成がおくれているために反抗しないのであれば、これまでの育児をふり返ってみてください。小さければ小さいほど立ち直りは早く、傷も小さいのですから。子どものあるがままの姿を認め、子どもの一歩後ろからついていくという気持ちを失わないで、育児を見直してください。